

47都道府県・ 遺跡百科

石神裕之

少し前になりますが、大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録される見込みとのニュースがありました。6月末にアゼルバイジャンで開かれる、ユネスコ世界遺産委員会で決まるそうなのですが、今回報道されたのは事前審査をする国際記念物遺跡会議（イコモス）が世界遺産への登録がふさわしいと勧告した、ということ。登録を目指す動きは2005年にスタートしたものの、3年続けて国内推薦から漏れるなど、順調とはいえない道のりでした。また、近畿地方には姫路城など5つの世界遺産が登録されていますが、大阪府にだけはありませんでした。そういった意味でも悲願の登録となりそうです。

「百舌鳥・古市古墳群」には、大山古墳も含まれています。仁徳天皇陵ともよばれるこの古墳は、墳丘長が486mもあり、日本最大級の前方後円墳！「世界三大墳墓」にも数えられています。ちなみに他の2つは、クフ王のピラミッド（エジプト）と、秦の始皇帝陵（中国）。高さはピラミッドが1番高いのですが、面積が1番広いのは大山古墳。大林組プロジェクトの試算によると、当時の古代工法では1日2000人で15年8ヶ月かかったそうです。そんな大きな古墳がいま市街地の中にあるのはすごいですね。私は直接行ったことがないのですが、教科書に載っている写真や、テレビでの映像を見ると本当に大きく立派で、まるで森のようだなあと思います。実は私の家の近くにも古墳があるのですが、夕方に見るのが1番雄大な感じがして好きです。夕焼けをバックにどんと構える古墳はとてまかっこよく、はるか昔の人たちもこの風景を見たんだろうなあ、と思うと、たいていのことは些細なことに思えてきます。笑

近くにありすぎたせいかあまり興味を持ったことはなかったのですが、今回のニュースを聞いて、遺跡をはじめとした考古学の分野にも興味がわいてきました。この本には47都道府県の地域の特色、主な遺跡がまとめられています。古墳、貝塚、寺跡、経塚など、遺跡ならなんでも載っています。過去の人類がどのような生活を送っていたのか、地震や火山活動などの自然とどのようにつきあっていたのか、現代の私たちにとっても気になることばかり。平成・令和時代の遺跡は、何になるでしょうか。